

主催：(一般社団法人)障がい児成長支援協会
共催：講演会事務局 A to Z Academy
児童発達支援・放課後等デイサービス

○言語の遅れに対する対応と、知的能力を伸ばすための療育内容
○支援が必要な子供たちへの声のかけ方(ほめ方・叱り方)

中部学院大学 非常勤講師 山内 康彦

国語	国語の基礎知識と表現力	国語	国語の基礎知識と表現力
算数	算数の基礎知識と表現力	算数	算数の基礎知識と表現力
理科	理科の基礎知識と表現力	理科	理科の基礎知識と表現力
社会	社会の基礎知識と表現力	社会	社会の基礎知識と表現力
音楽	音楽の基礎知識と表現力	音楽	音楽の基礎知識と表現力
美術	美術の基礎知識と表現力	美術	美術の基礎知識と表現力
体育	体育の基礎知識と表現力	体育	体育の基礎知識と表現力
外国語	外国語の基礎知識と表現力	外国語	外国語の基礎知識と表現力
総合	総合的な学習の場	総合	総合的な学習の場

国語 国語の基礎知識と表現力
 算数 算数の基礎知識と表現力
 理科 理科の基礎知識と表現力
 社会 社会の基礎知識と表現力
 音楽 音楽の基礎知識と表現力
 美術 美術の基礎知識と表現力
 体育 体育の基礎知識と表現力
 外国語 外国語の基礎知識と表現力
 総合 総合的な学習の場

A photograph showing a green plastic watering can on the left and a small potted plant with green leaves on the right, both sitting on a light-colored concrete sidewalk. In the background, there is a building with large glass windows and a brick wall section. The scene is brightly lit, suggesting daytime.

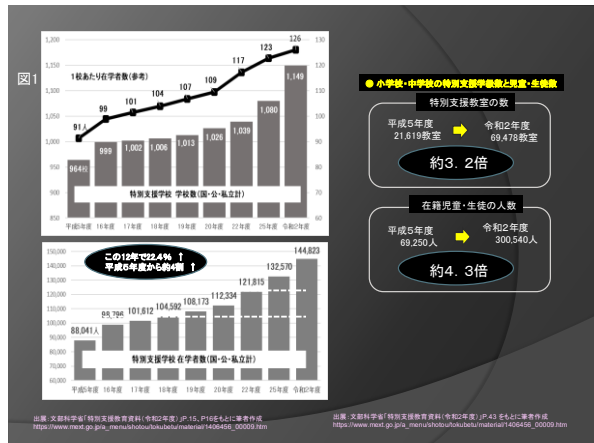


- 1 はじめに（特別支援を取り巻く現状）
- 2 支援が必要な子供たちへの声のかけ方
（ほめ方・叱り方）
- 3 言語の遅れに対する対応と、
知的能力を伸ばすための療育内容

特別支援が必要な児童生徒は増加している

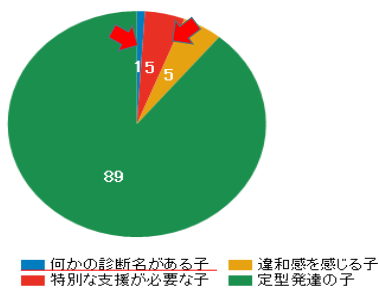
■通常の学級の中の発達障がいのある児童生徒
10年前6.5%→一昨年8.8%
この10年で急増！ その訳は・・・？

■不登校の児童生徒
小学校：77人に1人
→中学校：20人に1人
この数値も急増！ その訳は・・・？



【通常の学校内で約6%の対象児】(可児市も全国同様)

特別支援が必要な児童生徒の割合(%)
(可児市小中学校回収率90% N=7642)



講演会の内容



- 1 はじめに(特別支援を取り巻く現状)
- 2 支援が必要な子供たちへの声のかけ方(ほめ方・叱り方)
- 3 言語の遅れに対する対応と、知的能力を伸ばすための療育内容

答えは簡単！！

子どもたちへのかかわり方の大原則

しかるより
ほめること

その理由は・・・

叱られる子は負のスパイラルに陥っている

できない→叱られる→自信がなくなる
→やらない→叱られる→ふてくされる
→怒鳴られる→逃げる(反抗する)
→もっともっと怒鳴られる

◆自己肯定感をなくしていく
「俺はどうせバカだから・・・」
「どうせ 私には できないし・・・」
「はじめから やらない方がいいや」

ほめること・・・ 当たり前で一番大切

そのポイントは以下の3点
☆この順番も大切

- 1 位置づけ
- 2 価値づけ
- 3 方向づけ

今回の講演会では…………付け加えて

子どもを伸ばす親のかかわり方は
発展していく。

- 1 手をかける
- 2 目をかける
- 3 気を配る

※2と3を特に大切にする。

それでは…………

問題になっていることに対して
どのように取り組めばよいか。

- 1 課題（問題点）を全て書き出す
- 2 取り組みやすい順にならべる
- 3 数個と期間を決めて取り組む

※本人が主体的に選択する

※関係諸機関と一緒に取り組む

ほめることでよいスパイラルに変えていく

できる→ほめられる→自信がつく→やる
→またほめられる→もっともっとやる
→どんどんできる→更にほめられる
→より高い目標に向かって取り組む

◆自己肯定感を高めていく

「ぼくは、計算は得意なんだ。」

「調理が好きでコックさんになりたい」

「勉強は苦手だけどやさしい子です」

叱ることも大切

ダメなことはダメ

社会で通用しないことは

子どものうちからしつけをする

◆スポーツの世界でもレッドカード

◆警察で言えば…………

・発達障がいに対して基本的に

減刑はありません…………

叱ることは、裏を返すと「ほめること」

何をやっても怒るガミガミお母さんは▲

叱る・ほめる観点を事前に明確にする

①殴るなどの暴力は絶対許しません

→お手伝いなど相手にやさしい行動

②「殺す」「うざい」などの暴言もNG

→あいさつやお礼など温かい言葉

③3回同じことを注意されたら厳しく

→言われる前に自分で考えて行動する

☆なぜ叱られるのかを本人や周りが納得
していることが大切

知らなかったでは済まされない

学校をはじめ各種機関ではもっとよい
様々なサービスを受けることができる
しかし、向こうから教えてくれない！！
→よいサービスは保護者が請求する
なぜ、向こうから教えてくれないか
(※税金の控除も申告制ですね)
全員にそのサービスができないから
※公務員の最大の欠点の一つ！！
◎医師など専門家の意見書が有効！

知らなかったでは済まされない

☆文句を言う前に情報を知って
「かしこい親」になりましょう
※「個別の支援計画の作成」
5領域(「健康・生活」「運動・感覚」「認
知・行動」「言語・コミュニケーション」
「人間関係・社会性」)
保護者と相談のもと学校が中心になって作
成。様々な機関も巻き込んで、有効な支援を
書類の中に残していく。担当が変わっても残
る。(放課後等デイとも連携して作成)

講演会の内容



- 1 はじめに(特別支援を取り巻く現状)
- 2 支援が必要な子供たちへの声のかけ方
(ほめ方・叱り方)
- 3 言語の遅れに対する対応と、
知的能力を伸ばすための療育内容

小学校までに身につけさせたいこと

『知的能力』と『適応能力』

1 知的能力→『学校の勉強』『知能指数』

2 適応能力→『社会性』

◎両方大切ではあるが・・・

まず大切なのは適応能力(社会性)

とはいっても、知的能力を高めたい
そこで今回は『知的能力の向上』に
スポットをあててお話をします。

言葉の遅れは全ての遅れにつながる

- ①知能検査は、言葉で質問されたことを言葉で応
える内容が多い。よって言葉の遅れが大きい子
は知能指数が低く出る傾向がある。
- ②言葉の遅れがあるとコミュニケーションの力も
当然下がる。となると適応能力(社会性)も低
く評価される。

療育の中でも言語療育は重要

ただ“療育”に力を入れすぎて修行になっ
てはいけない！『楽しく療育』がポイント！

発育発達期の身体的特徴

スキヤモンの発育曲線から
なんと神経系(脳など)は7歳ま
でに成人の95%の大きさまで発
達する。

幼児期～中学年にかけて感覚や、
神経・筋コントロール能力の向上
が著しい。つまり、今が大切！！

よく言われる“都市伝説”は本当！

- ①絶対音感は遅くても7歳まで！
- ②体操選手は3歳から！
- ③英語教育は小学校前から！
- ④ことばの教室は小2まで・・・
(例えば“吃音”の指導)

治す訓練から付き合う訓練へ

【家庭でもできる言語療育の具体例】
※発語ないお子さんへの療育例→指さしから開始
※お菓子やストローを使って発語の促進！

発育発達期の身体的特徴② 運動も同じ

ゴールデンエイジ(9～12歳)

「即座の習得」という特徴
※「プレゴールデンエイジ」における基本的な動きの習得が大前提

プレゴールデンエイジ(5～8歳)

様々な動きを経験することが大切

家庭でもできる子どもを伸ばす療育① 『指遊び』(脳と末梢神経の伝達)

- ①片手でやってみる(親指と小指を交互に出す)
- ②反対の手でやってみる。
- ③両手でやってみる。
- ④スピードを速くしてやってみる。
- ⑤“もし亀のリズム”でやってみる。

※まずは、できるゆっくりスピードからはじめる。あくまで遊びなので、“できる”“できない”に強くだわらないことが大切。

家庭でもできる子どもを伸ばす療育② 『暗記遊び』ワーキングメモリーを高める

- ①歌を歌いながら
♪八百屋のお店にならんだ品物見てごらん♪
話してごらん、覚えてごらん、はいはいハイ！
 - ②一人目の人好きな物を言う・・・りんご
 - ③二人目の人は、りんごの後に好きな物を言う
りんご・・・バナナ
 - ④三人目の人は、どんどん増える
りんご・・・バナナ・・・みかん
- ※みんなで手を叩きながらリズムや歌を歌う
そして覚える遊びをする。

家庭でもできる子どもを伸ばす療育③ 『発語』の前に“指さし”ができるようにする

お子さんが二足歩行する順は・・・

- ①ハイハイ→②つかまり立ち→③二足歩行
- では、発語については・・・

- ①微笑見返し→②指さし→③発語

※まずは、“指さし”ができるようにすること！

(例) ◎赤色と青色とどちらにする？

▲お茶のむ？ ▲これ食べなさい
→二択から三択へ

山内が20年間学校の担任をした経験から

①身辺自立

※衣服の着脱、食事、排泄などの身辺自立に関する生活能力

【自分で起床できるかについて調査】

なんと 小1→約50%

小6→約70%

中3→約70%

身につく時期に身につけさせないともう
身につかない！ 手遅れになる！

できることからの出発



《通常の教育》

「できないこと 新たなことへの
チャレンジ教育」

今までにできた経験・成功体験が多いから
進んで取り組むことができる。

《特別支援教育》

「できることからの出発の教育」
成功体験を積み重ねて自信をつけさせる

ゲームとYouTubeの子守には注意を！

《注意》

「ゲーム」や「YouTuber」の子守は厳禁！
将来取り返しの付かないツケがまわってきます

ICD11 (WHOの診断基準)

- アルコール依存症
- ギャンブル依存症
- ゲーム障害(新)……同じ精神病

つまり、ゲームを毎日3時間する子は、毎日3
時間飲酒したり、パチンコするのと同じ！？

ご清聴ありがとうございました



オススメ ほめる育て方や進路についてわかる本！

- ①特別支援教育って何？
- ②特別支援が必要な子どもの進路の話
- ③特別支援が必要な子どもの「就労・進学・進路」相談室
- ④特別支援が必要な子どもの高等学校進学の話

WAVE出版→書店・アマゾン等で購入可能！

